

第77回入学式 校長式辞

春風が心地よく、桜の花が咲き誇る今日のよき日、兵庫県立尼崎北高等学校第77回入学式を挙行できますことは、本校にとって、この上もない喜びとするところです。

本校の教職員を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

ご来賓の皆様には、ご多忙の中ご臨席を賜り、錦上花（きんじょうはな）を添えて頂きましたこと誠にありがたく、高壇（こうだん）からではございますが、厚くお礼申し上げます。

また、保護者の皆様、ご出席ありがとうございます。皆様の熱心さは、何よりも学校の支えでございます。

先ほど入学を許可しました280名の皆さん、入学おめでとうございます。今日から皆さんは、尼崎北高校の生徒として学ぶことになりました。

本校は、大正11年に設置された中外商業学校と琴浦女学校を前身に、尼崎市立（しりつ）北高校を経て、昭和26年10月に兵庫県に移管され、兵庫県立尼崎北高等学校として設立されました。「尼北、北高」の愛称のもと地域の皆様の温かい支援を受けながら、ここ尼崎塚口の地で発展を続けてまいりましたが、令和3年には、創立100年という大きな節目を迎え、自主性を重んじた校風など、受け継いだ伝統を次世代に継承しつつ、次の10年、20年、そして更なる100年に向けて新たな一歩を踏み出しところです。

皆さんの前には、新しい学びと出会いに満ちた日々が広がっています。

それは、時に挑戦に満ち、時に喜びにあふれ、皆さん一人一人の歩みによって形作られていくことでしょう。

さて、少し話は変わりますが、先日、日本最大級の展覧会「日本美術展覧会（いわゆる日展）」の書道部門で入選した本校教員の作品を拝観する機会を得ました。

一流と呼ぶにふさわしい筆致（ひっち）、線の美しさ、構成、余白の妙（みょう）が光る作品には、平安時代後期に西行によってつくられた「山家集」に納められている和歌が揮毫（きごう）されていました。

本日の皆さんの門出と重なることから、是非、ご紹介したいと思います。

光をば くもらぬ月ぞ みがきける
稲葉（いなば）にかかる あさひこの玉（たま）
かぎりなく 名残をしきは 秋の夜の
月にともなう あけぼのの空

この和歌は、雲に遮られることなく輝く月と、それに続く、朝日が稲の葉を照らし、美しくきらめく様子を詠んでいます。

また、名残惜しい夜の月明かりが、やがて夜明けの空へとつながっていく。その移ろいの美しさが表現されています。

皆さんがこれまで過ごしてきた中学校生活は、まるでこの歌にある「夜の月」のように、名残惜しく感じられるかもしれません。しかし、そこにとどまるのではなく、新しい光、つまり「朝日」が昇るように、新たな学びの道へと進んでいくことが大切です。

高校生活は、単なる通過点ではなく、皆さん自身が輝きを増し、新たな未来へと歩みを進める大切な時間です。皆さん一人ひとりが、自らを磨き、知識と経験を積み重ねることで、朝日のように希望に満ちた未来へとつながっていきます。

ときには困難なことがあるかもしれません。しかし、雲に隠れることなく輝く月や朝日のように、一つひとつの努力を積み重ね、自分を磨き続けてください。私たち教職員一同、皆さんが安心して学び、成長できる環境を全力で整えていきます。

皆さんが、この学び舎でかけがえのない経験をし、自らの光を放つ存在へと成長していくことを期待しています。ともに充実した高校生活を築いていきましょう。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。大切なお子様を本校の生徒として、本日よりお預かりすることになりました。

私ども教職員一同、全力をあげてお子様の教育に取り組む所存でございますが、教育は、家庭と学校が連携してこそ実を結ぶものであります。どうか、本校の教育に温かいご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

お子様が、本校での三年間、充実した日々を過ごされ、人として確かな成長を遂げられますことを祈念して式辞とします。

令和7年4月8日
兵庫県立尼崎北高等学校
校長 岡本 勇人